

11 教員組織

進捗状況報告

		公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2005	2006	2007	2008	備考	
○施策の目標の達成度を測る指標											
指標1	専任教員1人あたりの学生数（ST比）	公開	×	○	人	52.8	51.1	49.8	71.7		
○基礎的な状況を継続的に観測する指標											
指標2	必修科目および選択必修科目に対する専任比率	専門教育	公開	×	○	%	76.4	86.2	87.8	90.4	
		教養教育	公開	×	○	%	29.2	31.9	35.3	31.4	
指標3	専任教員一人あたりの授業時間数	公開	×	○	時間	→	→	→	→	大学基礎データ表22参照	
指標4	専任教員の年齢別構成（分布）	公開	○	○		→	→	→	→	大学基礎データ表21参照	
指標5	教員組織における女性教員の比率	公開	○	○	%	18.4	20.0	18.2	15.8		
指標6	教学補佐、実験実習補佐・教務補佐、授業補佐の採用数	教学補佐	公開	×	○	人	23	23	21	23	他に、社会福祉実習助手4 (2005、2006、2007年度) COE研究補佐3 (2005、2006年度)
		実験実習指導補佐・教務補佐	公開	×	○	人	3	3	3	3	
		授業補佐	公開	×	○	人	0	0	0	0	
指標7	本学出身の専任教員の構成比率	公開	×	○	%	23.5	25.0	22.8	13.2		
<small>注) 全学的な視点、個別的な視点について 全学的な視点とは学長室の進捗状況報告シートに表示される項目 個別的な視点とは各学部の進捗状況報告シートに表示される項目</small>											

各種指標の数値から読み取れるように、教員組織の改善はおおむね堅調に推移している。2009年度からは学部再編（定員増）にともない、新たに12名の専任教員が着任する。この状況を踏まえ、今後も引き続き教員組織の改善に取り組んでいく。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

2008年度の専任教員1人あたりの学生数(ST比)の値が2007年度と比較して大きくなっているが、これは社会福祉学科の学生(2~4年生)は在籍しているが、社会福祉学科所属教員が人間福祉学部開設に伴い移籍したためである。研究業績データベースの更新については大学全体として取り組む問題であるが、学部としても教授会において学部長からデータ更新の重要性について説明し更新依頼を行っている。

学内第三者評価

専任教員1人あたりの学生数について大学基準協会のガイドラインを大幅に越えているが、2009年度に12名の専任教員が着任し問題が解消される。ただし、社会学部社会福祉学科については、認証評価の結果に「それまでは何らかの工夫が必要である。」とされている点に留意されたい。また、2007年度の進捗状況報告および学内第三者評価に記された「教育研究業績データベースの更新率」についての記述が求められる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
ST比は大学基準協会のガイドライン（60名）を上回っているが、2009年度以降の12名の専任教員着任に伴い教員組織の改善が進む。